

(様式第10)

兵 医 法 第 74 号  
令 和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名

学校法人 兵庫医科大学  
理事長 太城 力良

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和2年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
氏 名	学校法人 兵庫医科大学 理事長 太城 力良

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

兵庫医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号	電話 ( 0798 ) 45-6111
---------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科      ② 消化器内科      ③ 循環器内科      4 腎臓内科	
5 神経内科      ⑥ 血液内科      7 内分泌内科      8 代謝内科	
9 感染症内科      ⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科      ⑪ リウマチ科	

診療実績

- ・ 内分泌内科、代謝内科の診療内容は「内分泌・代謝内科」で提供。
- ・ 腎臓内科の診療内容は、「腎臓・人工透析内科」で提供。
- ・ 感染症内科の診療内容は、主として総合内科および感染制御部で提供
- ・ 神経内科の診療内容は「脳神経内科」にて提供。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科      ② 消化器外科      3 乳腺外科      4 心臓外科	
5 血管外科      ⑥ 心臓血管外科      7 内分泌外科      ⑧ 小児外科	
診療実績 ・ 乳腺外科、内分泌外科の診療内容は「乳腺・内分泌外科」で提供。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科      ② 小児科      ③ 整形外科      ④ 脳神経外科      ⑤ 皮膚科	
⑥ 泌尿器科      ⑦ 産婦人科      8 産科      9 婦人科      ⑩ 眼科      ⑪ 耳鼻咽喉科	
⑫ 放射線科      13 放射線診断科      ⑭ 放射線治療科      ⑮ 麻酔科      ⑯ 救急科	

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科      2 矯正歯科      3 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 臨床検査科	3 病理診断科	4 糖尿病内科	5 肝臓・胆のう・膵臓内科
6 腫瘍内科	7 形成外科	8 美容外科	9 頭頸部外科	10 ペインクリニック・疼痛緩和外科
11 内分泌・代謝内科	12 脳神経内科	13 腎臓・人工透析内科	14 乳腺・内分泌外科	15 歯科口腔外科
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
44床	0床	0床	0床	919床	963床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	526 人	6.5 人	532.5 人	看護補助者	186 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	20 人	1.1 人	21.1 人	理学療法士	33 人	臨床 臨床検査技師	109 人
薬 剤 師	73 人	0.0 人	73.0 人	作業療法士	14 人	検査 衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0.0 人	0.0 人	視能訓練士	13 人	その他	0 人
助 産 師	40 人	0.5 人	40.5 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	1,033 人	23.0 人	1,056.0 人	臨床工学士	26 人	医療社会事業従事者	11 人
准看護師	0 人	1.4 人	1.4 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	26 人
歯科衛生士	6 人	0.0 人	6.0 人	歯科技工士	2 人	事務職員	270 人
管理栄養士	9 人	0.0 人	9.0 人	診療放射線技師	53 人	その他の職員	22 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	57 人	眼科専門医	22 人
外科専門医	61 人	耳鼻咽喉科専門医	14 人
精神科専門医	11 人	放射線科専門医	4 人
小児科専門医	24 人	脳神経外科専門医	18 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	19 人
泌尿器科専門医	8 人	麻酔科専門医	20 人
産婦人科専門医	14 人	救急科専門医	12 人
		合 計	290 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 阪上 雅史 ) 任命年月日 2019年4月1日

医療安全管理部長、医療安全管理委員会委員長 2012.4-2017.3  
 医療安全管理責任者 2016.10-2017.3

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	717.5人	8.5人	726.0人
1日当たり平均外来患者数	1,888.5人	85.9人	1,974.4人
1日当たり平均調剤数	3,119.7剤		
必要医師数	200.0人		
必要歯科医師数	5.0人		
必要薬剤師数	39.0人		
必要(准)看護師数	439.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	心細動除去装置	ペースメーカー
集中治療室	450.44 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(RC)	20床 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	339.44 m <sup>2</sup> m <sup>2</sup> 台	病床数 病床数	22床 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名	41.95 m <sup>2</sup>				
化学検査室	159.50 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	生化学・免疫統合型分析装置cobas8000<c702>, cobas8000<e801> 免疫分析ARCHITECTi1000SR, 全自動糖分析装置GA09, 東ソー自動グリコヘモグロビン分析計HLC-723G11		
細菌検査室	145.90 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	MicroScan W/A、バクテックFX、MGIT、Taqman		
病理検査室	208.90 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	クリオスタット、連続迅速自動固定包埋装置		
病理解剖室	110.70 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	解剖台		
研究室	17,124.80 m <sup>2</sup>	鉄骨造(S)	(主な設備)	CO2インキュベーター、オートクレーブ、オールインワン蛍光顕微鏡、リアルタイムPCRシステム		
講義室	2,006.60 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(RC) 鉄骨造	室数	15室	収容定員	1,445人
図書室	1,128.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート(RC)	室数	1室	蔵書数	67,550冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		93.4%	逆紹介率	73.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数	22,317人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18,596人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,351人		
	D: 初診の患者の数	25,337人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮崎 浩彰	関西医科大学 医療安全管理センター 副センター長 (兼任) 消化器肝臓内 科 / 理事長特命教 授 (医師)	○	医療に係る安全管 理に関する見解を 有する者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
亀井 尚也	かけはし法律事務所 (弁護士)		法律に関する見解 を有する者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
辰馬 勝	学校法人 関西学院評 議員 関西学院同窓会 副会 長		医療を受ける者の 立場から意見を述 べることができる 者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	
兵庫医科大学病院ホームページにて掲載	





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	肝以外の腫瘍に対するラジオ波凝固治療	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 肺、腎臓、副腎、骨・軟部腫瘍の外科的切除が困難な患者に対して、局所麻酔下で経皮的に施行可能なラジオ波凝固治療を施行し、より低侵襲な治療を提供している。			
医療技術名	骨軟部腫瘍に対する経皮的凍結治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 他の治療法が有効でなかった骨軟部腫瘍の患者に対し経皮的凍結治療を施行する。治療領域が確認できることで、神経損傷を回避しやすくなり、手技中の疼痛も少ないという利点がある。さらに、良好な除痛効果や腫瘍縮小効果が期待できる治療法である。			
医療技術名	遺伝子パネル「PleSSision検査」	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 採取したがん組織からDNAとRNAを抽出し複数の遺伝子に生じた変異を調べる検査であり、検査の実施は外部の検査会社に委託して行なう。PleSSision検査においては160遺伝子の解析を行なう。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 カテーテルを用いて大動脈弁を人工弁に置き換える治療法。従来の開胸大動脈弁置換術よりも低侵襲であり、手術が困難と判断された高齢者でも可能な大動脈弁狭窄症の治療法である。			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 体への負担が少なく、より正確で安全性の高い操作が可能な手術支援ロボットによる低侵襲な胃癌の手術。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要 手術支援ロボットにより、従来の腹腔鏡よりも緻密な手術が可能になり、機能温存が重要な直腸がんの手術に有用な治療法である。			
医療技術名	アミロイドPET	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 アルツハイマー型認知症のリスクを評価する最先端の検査です。アルツハイマー病の原因である脳のアミロイドβに集積する物質を注射し、脳内にどのくらい蓄積するかを調べます。			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 手術支援ロボットにより、従来よりも緻密な手術が可能になり、機能温存が重要な肺がんの手術に有用な治療法である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	99
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57	特発性拡張型心筋症	31
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	16	60	再生不良性貧血	40
6	パーキンソン病	262	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	62
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	7
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	170	66	IgA 腎症	21
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	117	68	黄色靭帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	24	69	後縦靭帯骨化症	89
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	36
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	33
17	多系統萎縮症	28	72	下垂体性ADH分泌異常症	13
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	59	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	26
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	105
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	19	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	1	84	サルコイドーシス	44
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	54
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	3
32	自己食食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	1
34	神経線維腫症	5	89	リンパ脈管筋腫症	5
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	22
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	28
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	7
40	高安動脈炎	17	95	自己免疫性肝炎	25
41	巨細胞性動脈炎	8	96	クローン病	1179
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	1461
43	顕微鏡的多発血管炎	35	98	好酸球性消化管疾患	14
44	多発血管炎性肉芽腫症	25	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	4
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	19	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	313	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	131	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	125	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	54	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	70	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	17	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	10
113	筋ジストロフィー	16	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

120	遺伝性ジストニア		170	オキシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリズ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	19	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	17
224	紫斑病性腎炎	4	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	2	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算2
・特定機能病院入院基本料	・入退院支援加算3
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算1
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算2	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算1 20対1	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者5割以上)	・救命救急入院料1
・看護職員夜間配置加算1	・救命救急入院料4
・看護補助加算2	・特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神病棟入院時医学管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・医療機器安全管理料1
・ウイルス疾患指導料 注2に規定する加算	・医療機器安全管理料2
・遠隔モニタリング加算(心臓ペースメーカー指導管理料)	・遠隔モニタリング加算(在宅酸素療法指導管理料に対する)
・糖尿病合併症管理料	・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料に対する)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料イ	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料ロ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ハ	・精神科退院時共同指導料2
・外来緩和ケア管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・がんゲノムプロファイリング検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・先天性代謝異常症検査
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・糖尿病透析予防指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・外来放射線照射診療料	・国際標準検査管理加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・遺伝カウンセリング加算
・腎代替療法指導管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談支援加算	・胎児心エコー法
・開放型病院共同指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ヘッドアップティルト試験
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん治療連携計画策定料	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・外来排尿自立指導料	・黄斑局所網膜電図
・薬剤管理指導料	・全視野精密網膜電図
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・ロービジョン検査判断料

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・コンタクトレンズ検査料1	・医療保護入院等診療料
・小児食物アレルギー負荷検査	・口腔粘膜処置
・内服・点滴誘発試験	・レーザー機器加算
・経気管支凍結生検法	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・画像診断管理加算3	・人工腎臓
・ポジトロン断層撮影	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・CAD/CAM冠
・冠動脈CT撮影加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・外傷全身CT加算	・骨髄微小残存病変量測定
・心臓MRI撮影加算	・センチネルリンパ節加算
・乳房MRI撮影加算	・処理骨再建加算
・頭部MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・全身MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・外来化学療法加算1	・椎間板内酵素注入療法
・無菌製剤処理料	・腫瘍脊椎骨全摘術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・角膜移植術(内皮移植加算)
・がん患者リハビリテーション料	・羊膜移植術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・精神科作業療法	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・認知療法・認知行動療法1	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・網膜再建術

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工中耳植込術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下肝切除術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁形成術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・同種死体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・生体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・膀胱水圧拡張術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下陰式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌疾患症候群患者に限る。)	・病理診断管理加算2
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌疾患症候群患者に限る。)	・デジタル病理画像による病理診断
・輸血管理料 I	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・コーディネート体制充実加算	・口腔病理診断管理加算2
・自己生体組織接着剤作成術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・
・同種クリオプレシピテート作成術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・顎関節人工関節全置換術(歯科)	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳卒中の帰結予測とリハビリテーション栄養:MRI脳画像による予測と必要熱量の推定	小山 哲男	リハビリテーション科	2,080,000	補委	日本学術振興会
抗IL-6受容体抗体による術後癒着抑制の分子機構検証と臨床試験への展開	藤元 治朗	肝・胆・膵外科	5,070,000	補委	日本学術振興会
重度の上肢麻痺に対するニューロフィードバックを併用した複合的CI療法の開発	道免 和久	リハビリテーション科	1,300,000	補委	日本学術振興会
人工知能による深層学習を用いたリアルタイム手術支援システムの開発	篠原 尚	上部消化管外科	6,500,000	補委	日本学術振興会
うつ病合併妊婦に対する心理教育と対人関係療法の無作為化比較試験	清野 仁美	精神科神経科	650,000	補委	日本学術振興会
エプスタイン・バー・ウイルス関連腫瘍の進展阻止をめざすPD-L1発現抑制法の開発	松田 育雄	病理診断科	910,000	補委	日本学術振興会
筋強直性ジストロフィー患者脳における肉眼的および顕微鏡的病態多様性の検討	木村 卓	脳神経内科	780,000	補委	日本学術振興会
摂食障害の予防と啓蒙についての調査研究—痩せすぎモデル規制の影響の検討—	山田 恒	精神科神経科	390,000	補委	日本学術振興会
超音波医学と形態学を駆使した肝発癌リスク予測と非侵襲的線維化・脂肪化診断法の確立	飯島 尋子	肝・胆・膵内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
寛解後炎症性腸疾患患者に残存する消化器症状発現メカニズムの解明	富田 寿彦	内視鏡センター	780,000	補委	日本学術振興会
機能的消化管障害の新規治療標的の探索—粘膜内微小炎症による知覚受容の増強—	近藤 隆	消化管内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
多層的オミックス解析データから心不全診断における新たな層別化への展開	朝倉 正紀	循環器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
多重遺伝子変異導入モデルマウスを用いた悪性中皮腫発症機序解明と治療標的分子の探索	木島 貴志	呼吸器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
IL-33によって誘導される皮膚炎の分子病態に関する研究	今井 康友	皮膚科	1,170,000	補委	日本学術振興会
複数回の造血幹細胞移植後にもかかわらず再発した白血病細胞の免疫回避機構の解明	池亀 和博	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
代謝異常と認知機能の関連に及ぼす睡眠障害の影響	小山 英則	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
腎芽腫における術前画像リスク因子と血清遊離核酸による診断を用いた新規療法の開発	大植 孝治	小児外科	1,170,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
遷延性術後痛の発症メカニズムの解明	廣瀬 宗孝	麻酔科・疼痛制御科	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍関連マクロファージをターゲットにしたIL-18免疫療法の可能性	山田 直子	病理診断科	1,430,000	補委	日本学術振興会
咽頭・喉頭感覚刺激と嚥下誘発一誤嚥リスク解明に向けての臨床研究	任 智美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	390,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における新規リンパ管新生抑制因子によるリンパ行性転移の抑制	山根木 康嗣	病理診断科	910,000	補委	日本学術振興会
骨微小環境における老化の解明	高岡 一樹	歯科口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
小児片麻痺に対するCI療法の神経基盤と長期効果の解明	児玉 典彦	リハビリテーション部	650,000	補委	日本学術振興会
マイクロバブルを用いた血流解析による、転移性肝癌viability評価方法の確立	中村 育夫	肝・胆・膵外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
RAGEを介したグルコシルコイド／炎症による筋萎縮機序の解明と新規治療法の開発	庄司 拓仁	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
胸部大動脈瘤におけるトランスフェリン受容体1の関与と新たな治療法の開発応用	内藤 由朗	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ラジオ波凝固治療の適応拡大を見据えた新しい細径電極針の開発	山門 亨一郎	放射線医	1,560,000	補委	日本学術振興会
放射線性粘膜障害と舌運動障害への口腔内金属による影響ー新たな線量制約の解明ー	富士原 将之	放射線医	910,000	補委	日本学術振興会
FDG-PET/CTの標準化と癌の新しいバイオマーカーの確立:多施設共同臨床試験	北島 一宏	放射線医療センター核医・PET診療部	2,340,000	補委	日本学術振興会
肺RFA後の間質性肺炎急性増悪を引き起こす主要なサイトカインの探索と予防法の確立	児玉 大志	放射線医	1,560,000	補委	日本学術振興会
粘膜バリア機能制御による好酸球性消化管疾患に対する新たな治療法開発	大島 忠之	消化管内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
凍瘡様皮疹を呈する自己炎症性疾患における新規遺伝子変異同定と病態解析	金澤 伸雄	皮膚科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝内胆管癌におけるIL-11の機能解析と分子マーカーへの応用	宇山 直樹	肝・胆・膵外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒドロキシエチルデンプンによるグリコカリックス崩壊に対する血管収縮薬の軽減効果	多田羅 恒雄	麻酔科・疼痛制御科	910,000	補委	日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞を用いた脳出血治療の開発	吉村 紳一	脳神経外科	1,690,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
セロトニンによる新たな男性不妊治療法の開発	柴原 浩章	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
加齢黄斑変性発症リスクを有する中心性漿液性脈絡網膜症早期抽出法の検証	五味 文	眼科	1,820,000	補委	日本学術振興会
唾液腺癌発症に関わる遺伝子の解析と分子標的薬の探索	野口 一馬	歯科口腔外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
重症心身障害児におけるグレリンの栄養生理学的意義の検討と臨床応用に向けた研究	銭谷 昌弘	小児外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高齢者における医原性有害事象に関する臨床疫学研究	太田 好紀	医療人育成研修センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
肝動脈塞栓術後の再発を司る低酸素応答遺伝子の解明と、siRNA搭載塞栓剤の開発	高木 治行	放射線医	1,560,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性大腸癌肝転移に対する肝動注塞栓療法	小笠原 篤	放射線医療センター核医・PET診療部	1,040,000	補委	日本学術振興会
門脈大循環短絡を伴う胃静脈瘤に対する新たな塞栓治療法の確立：多施設共同臨床試験	小林 薫	放射線医	1,950,000	補委	日本学術振興会
尿中スプライシング産物をバイオマーカーとした筋ジストロフィー治療評価系の検証	田中 靖彦	小児科	1,950,000	補委	日本学術振興会
筋ジストロフィーにおける血管作動性因子のスプライシング動態の解明と治療応用	竹島 泰弘	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
肺癌治療において分子標的治療薬が惹起する薬剤性肺障害の発症機序の解明とその克服	南 俊行	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
女性ホルモン類似物質による敗血症時の過活性化好中球機能制御についての検討	石川 倫子	救急科	910,000	補委	日本学術振興会
熱傷サルコペニア骨格筋のミトコンドリア及びマイトファジー障害への麻酔の影響と対策	植木 隆介	麻酔科・疼痛制御科	1,430,000	補委	日本学術振興会
IL-18のがん治療における新たな抑制シグナルの解明	寺田 信行	病理診断科	1,820,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫に対してmTOR阻害剤とバルプロン酸を併用する新たな治療戦略の確立	麩谷 博之	整形外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎の病態におけるメントールの役割に関する研究	都築 建三	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
創傷治癒過程における皮膚創部の酸化ストレス耐性獲得機構の解明	河合 建一郎	形成外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究	大杉 夕子	血液内科	650,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳梗塞予防の新規標的因子としての頸動脈プラーク内新生血管の意義	山田 清文	脳神経外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
イントロン内配列制御による筋ジストロフィーエクソスキッピング治療効率化の検証	李 知子	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会
RAGEによる視床下部の炎症調節機構とそれに伴う摂食、代謝への影響の解明	小西 康輔	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症を合併した不妊症におけるNK細胞機能分担と機能発現の解明	山谷 文乃	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔癌のリンパ節転移におけるリンパ節ストローマ細胞と免疫寛容のメカニズムについて	吉川 恭平	歯科口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
手続き記憶を含めた神経心理・脳画像評価を用いたパーキンソン病のリハビリ効果予測	丸本 浩平	リハビリテーション部	650,000	補委	日本学術振興会
腎障害マーカーによるフレイル・サルコペニア病態評価法の確立	楠 博	総合診療内科	780,000	補委	日本学術振興会
血管内皮増殖因子スプライシングアイソフォームを制御する筋ジストロフィー治療の検証	下村 英毅	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
核酸治療によるKRAS遺伝子変異陽性肺癌に対する新規治療の確立	三上 浩司	呼吸器内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
血管新生阻害剤を用いた悪性胸膜中皮腫に対するがん免疫療法の発展と臨床応用	柁木 芳樹	呼吸器内科	2,470,000	補委	日本学術振興会
全身性急性炎症後の男性生殖機能改善を目的とした基礎検討	井上 岳人	救急科	1,560,000	補委	日本学術振興会
羊膜由来幹細胞を用いた脊髄損傷治療の検討	陰山 博人	脳神経外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
口腔癌細胞におけるVEGF-A/VEGFR-2autocrine機構の解明	川邊 睦記	歯科口腔外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ラット根尖孔外バイオフィルムモデルにおけるアジスロマイシン根管貼薬の有効性の検討	米田 直道	歯科口腔外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
舌, 軟口蓋の筋の量や質が閉塞性睡眠時無呼吸症の治療方針に与える影響	中村 祐己	歯科口腔外科	910,000	補委	日本学術振興会
G-CSF投与による骨リモデリング微小環境の破綻モデルの解析	上田 美帆	歯科口腔外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
脳内炎症からみた摂食・認知行動に対する生体リズム破綻の影響	角谷 学	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
上肢機能障害に対するボツリヌス治療後の上肢ロボット訓練と修正版CI療法の効果	内山 侑紀	リハビリテーション部	520,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
心不全合併貧血における鉄代謝調節機構の関与とそれに基づく新規治療法の探索	康村 誠希	循環器内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
チック関連強迫症の治療反応性予測における近赤外線スペクトロスコピーの有用性検証	向井 馨一郎	精神科神経科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
アンチセンスオリゴによりVEGFスプライシングを制御する小児腎疾患治療の検討	西岡 隆文	小児科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
M2c-マクロファージの制御による特発性肺線維症に対する新規抗線維化療法の開発	柴田 英輔	呼吸器内科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
炎症性皮膚疾患における2型自然リンパ球の遊走能に関する研究	永井 諒	皮膚科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
脊髄損傷由来幹細胞を用いた神経再生療法の開発	蔵本 要二	脳神経外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
新たに作製した粘表皮癌培養細胞の分子生物学的解析と新規治療法の開発	吉田 和功	歯科口腔外科	2,210,000	補 委	日本学術振興会
終末糖化産物受容体(RAGE)と血液脳関門機能、脳内炎症と認知機能障害	三好 晶雄	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
耐糖能、肥満・内臓脂肪、自律神経機能と心左室拡張機能に関する前向きコホート研究	森本 晶子	糖尿病・内分泌・代謝内科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
循環腫瘍細胞の自然免疫による排除機構に着目した免疫治療ターゲット分子の探索	奥野 将之	肝・胆・膵外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
精神疾患におけるグルテン感受性関連解析を起点とした新規治療手段の提供	本山 美久仁	精神科神経科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
ドルテグラビルによる体重増加機序の解明	秀田 恭子	薬剤部	480,000	補 委	日本学術振興会
N-acetylcysteineの骨治癒促進効果の検討	押谷 将之	歯科口腔外科	480,000	補 委	日本学術振興会
指定難病と小児慢性特定疾病に関連した先天性骨系統疾患の適切な診断の実施と医療水準およびQOLの向上をめざした研究	澤井 英明	臨床遺伝部	14,950,000	補 委	厚労省
自己免疫制御を機序とする新規シェーグレン症候群治療薬の探索	西浦 弘志	病理診断科	14,999,600	補 委	日本医療研究開発機構
臥位で尿流率が測定できるオムツ型尿流率測定システムの開発	兼松 明弘	泌尿器科	182,000	補 委	科学技術振興機構(JST)

計 16 件  
合計87件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入す  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Mikiya Beppu, Masanori Tsuji, Fujimaro Ishida 他	脳神経外科	Computational Fluid Dynamics Using a Porous Media Setting Predicts Outcome after Flow- Diverter Treatment.	AJNR Am J Neuroradiol. 2020Nov; 41: 2107	Original Article
2	Kimura Toshio, Akahori Hirokuni, Asakura Masanori 他	循環器内科	Impact of age on gender difference in long-term outcome of patients with acute myocardial infarction (from J-MINUET).	The American journal of cardiology. 2020Dec; 142: 5	Original Article
3	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori ,Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Reduced grip strength is associated with progression of depressive status in chronic liver diseases	Annals of Palliative Medicine. 2021Mar; 10: apm-20-2059	Original Article
4	Iseki Tomoya, Nakayama Hiroshi, Daimon Takashi 他	整形外科	Tibial tubercle- midepicondyle distance can be a better index to predict the outcome of medial patellofemoral ligament reconstruction than tibial tubercle- trochlear groove distance.	Arthroscopy, Sports Medicine, and Rehabilitation. 2020Oct; 2: e697-704	Original Article
5	Tomoya Iseki, Hiroshi Nakayama, Takashi Daimon 他	整形外科	Tibial TubercleMidepicondyle Distance Can Be a Better Index to Predict the Outcome of Medial Patellofemoral Ligament Reconstruction Than Tibial Tubercle-Trochlear Groove Distance	Arthroscopy, Sports Medicine, and Rehabilitation. 2020Dec; 2: e697	Others
6	Takashi Ueda , Yoshio Takesue, Kazuhiko Nakajima 他	感染制御部	Clinical efficacy and safety in patients treated with teicoplanin with a target trough concentration of 20 $\mu$ g/mL using a regimen of 12 mg/kg for five doses within the initial 3 days	BMC Pharmacology and Toxicology. 2020Jul; 21: 50-1	Original Article
7	Hiroki Ikeuchi, Motoi Uchino, Toshihiro Bando 他	炎症性腸疾患外科	Localization of recurrent lesions following ileocolic resection for Crohn's disease	BMC surgery. 2021Mar; 21: 145	Original Article
8	Nishimura Koichi, Asakura Masanori, Hirotani Sinichi 他	循環器内科	Manipulation of beta- adrenergic receptor in pressure-overloaded murine hearts mimics adverse and reverse cardiac remodeling.	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2020Jul; 527: 960	Original Article
9	Nami Nakagomi, Daisuke Sakamoto, Takanori Hirose 他	病理診断科	Epithelioid glioblastoma with microglia features: potential for novel therapy	Brain Pathology. 2020Nov; 30: 1119	Original Article

計 9 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
10	Horimatsu Tetsuo, Blomkalns Andra L., Oghi Mourad 他	臨床検査科	Niacin protects against abdominal aortic aneurysm formation via GPR109A independent mechanisms: role of NAD+/nicotinamide.	Cardiovascular research. 2020Dec; 116: 2226	Original Article
11	Kitajima Kazuhiro, Futani Hiroyuki, Tsuchitani Tatsuya 他	放射線医療センター	Quantitative Bone Single Photon Emission Computed Tomography/Computed Tomography for Evaluating Response to Bisphosphonate Treatment in Patients with Paget's Disease of Bone.	Case Reports in Oncology. 2020Jul; 13: 829-34	Case report
12	Morio Futoshi, Morimoto Shota, Onishi Shintaro 他	整形外科	Nonunion of a stress fracture at the base of the second metatarsal in a soccer player treated by osteosynthesis with the bridging plate fixation technique.	Case Reports in Orthopedics. 2020Dec; 2020: 6649443	Case report
13	Norito Kinjo, Shinichi Yoshimura, Kazutaka Uchida 他	脳神経外科	Incidence and prognostic impact of intracranial hemorrhage after endovascular treatment for acute large vessel occlusion.	Cerebrovascular Diseases. 2020Nov; 49: 540	Original Article
14	Honda Yosuke, Takahashi Keiko, Sasanuma Naoki 他	リハビリテーション技術部	Predictors of Functional Decline in Activities of Daily Living at Discharge in Patients After Cardiovascular Surgery	Circulation Journal. 2021Feb; 85: 1	Original Article
15	Daimon Aika, Goda Akiko, Masai Kumiko 他	循環器内科	Clinical significance and prognostic value of novel echocardiographic index for the severity of mitral regurgitation.	Circulation Report. 2020Apr; 2: 330	Original Article
16	Orihara Yoshiyuki, Asakura Masanori, Hida Nobuyuki 他	臨床検査科	Effect of oral Qing-Dai medication on pulmonary arterial pressure levels in patients with ulcerative colitis.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2020Jul; 84: 1339	Original Article
17	Miki Kojiro, Tanaka Takamasa, Yanaka Koji 他	循環器内科	Influence of self-expanding paclitaxel-eluting stent sizing on neointimal hyperplasia in superficial femoral artery lesions.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2020Sep; 84: 1854	Original Article
18	Akahori Hirokuni, Masuyama Tohru, Imanaka Takahiro 他	循環器内科	Impact of peripheral artery disease on prognosis after myocardial infarction: The J-MINUET study.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2020Oct; 76: 402	Original Article
19	Tomoko Lee, Katsuhiko Yoshii, Satoru Yoshida 他	小児科	Retrospective evaluations revealed pre-symptomatic citrulline concentrations measured by newborn screening were significantly low in late-onset ornithine transcarbamylase deficiency patients	Clinica Chimica Acta. 2020Nov; 510: 633	Original Article

計 10 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
20	Tanaka Takamasa, Miki Kojiro, Akahori Hirokuni 他	循環器内科	Comparison of coronary atherosclerotic disease burden between ST-elevation myocardial infarction and non-ST-elevation myocardial infarction: Non-culprit Gensini score and non-culprit SYNTAX score.	Clinical Cardiology. 2021Feb; 44: 238	Original Article
21	Nakanishi Takashi, Kuragano Takahiro	消化管内科	Potential hazards of recent trends in liberal iron use for renal anemia.	Clinical Kidney Journal. 2020Aug; 14: 59	Review
22	Maruo Keishi, Arizumi Fumihiro, Kusuyama Kazuki 他	整形外科	Incidence and risk factors of anterior longitudinal ligament rupture after posterior corrective surgery using lateral lumbar interbody fusion for adult spinal deformity.	Clinical Spine Surgery. 2020Apr; 34: E26-31	Original Article
23	Kusunoki Hiroshi, Tsuji Shotaro, Kusukawa Tomoyuki 他	総合内科	Relationships between cystatin C- and creatinine-based eGFR in Japanese rural community-dwelling older adults with sarcopenia.	Clinical and Experimental Nephrology. 2021Mar; 25: 231-9	Original Article
24	Kusunoki Hiroshi, Tsuji Shotaro, Kusukawa Tomoyuki 他	総合内科	Relationships between cystatin C- and creatinine-based eGFR in Japanese rural community-dwelling older adults with sarcopenia.	Clinical and experimental nephrology. 2021Mar; 25: 231	Original Article
25	Nagasawa Yasuyuki, Yamamoto Ryohei, Shinzawa Maki 他	腎・透析内科	Efficacy of corticosteroid therapy for IgA nephropathy patients stratified by kidney function and proteinuria	Clinical and experimental nephrology. 2020Oct; 24: 927	Original Article
26	Yoh Kazunori, Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki 他	肝・胆・膵内科	Grip Strength: A Useful Marker for Composite Hepatic Events in Patients with Chronic Liver Diseases	Diagnostics. 2020Apr; 10: 238	Original Article
27	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Anthropometric Measurements and Frailty in Patients with Liver Diseases	Diagnostics (Basel). 2020Jun; 10: 433	Original Article
28	Kurando Kusunoki, Yuji Toiyama, Yoshinaga Okugawa 他	炎症性腸疾患外科	Advanced Lung Cancer Inflammation Index Predicts Outcomes of Patients With Colorectal Cancer After Surgical Resection	Diseases of the Colon & Rectum. 2020Sep; 63: 1242	Original Article
29	Kei Kimura, Masataka Ikeda, Kozo Kataoka 他	下部消化管外科	Sacrectomy for Recurrent Rectal Cancer Using the Transanal Total Mesorectum Excision Technique	Diseases of the Colon & Rectum. 2020Dec; 63: 566	Original Article
30	Naohito Beppu, Masataka Ikeda, Kei Kimura 他	下部消化管外科	Extended Total Mesorectal Excision Based on the Avascular Planes of the Retroperitoneum for Locally Advanced Rectal Cancer with Lateral Pelvic Sidewall Invasion	Diseases of the Colon & Rectum. 2020Oct; 63: 1475	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Nakao Yuta, Yamashita Taiji, Honda Kosuke 他	リハビリテーション技術部	Association Among Age-Related Tongue Muscle Abnormality, Tongue Pressure, and Presbyphagia: A 3D MRI Study	Dysphagia. 2020Aug; 36: 1	Original Article
32	Yuta Nakao, Onishi Hideo, Haji Tomoyuki 他	リハビリテーション技術部	Impact of Thickened Liquids on Laryngeal Movement Velocity in Patients with Dysphagia	Dysphagia. 2021Mar; 5: 1	Original Article
33	Koyama Hidenori, Kadoya Manabu	糖尿病・内分泌・代謝内科	Serum cystatin C level in chronic hypercortisolism	Endocrine Journal. 2020Aug; 67: 891	Review
34	Hashimoto Masaki, Sato Ayuko, Kuroda Ayumi 他	呼吸器外科	Clinical feature of diagnostic challenging cases for pleural biopsy in patient with malignant pleural mesothelioma.	General thoracic and cardiovascular surgery. 2020Aug; 68: 820	Original Article
35	Tsuji Shotaro, Shinmura Ken, Nagai Koutetsu 他	整形外科	Low back pain is closely associated with frailty but not with sarcopenia: Cross-sectional study of rural Japanese community-dwelling older adults	Geriatrics & Gerontology International. 2021Jan; 21: 54-9	Original Article
36	Fukuhara Eiji, Mine Takanao, Kishima Hideyuki 他	循環器内科	Predictors for reduced flow velocity in left atrial appendage during sinus rhythm in patients with atrial fibrillation.	Heart and Vessels. 2021Mar; 36: 393	Original Article
37	Kitajima Kazhiro, Futani Hiroyuki, Tsuchitani Tatsuya 他	放射線医療センター	Quantitative bone SPECT/CT applications for cartilaginous bone neoplasms	Hellenic Journal of Nuclear Medicine. 2020Jul; 23: 133-7	Original Article
38	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Predictors for Grip Strength Loss in Patients With Chronic Liver Diseases	In vivo (Athens, Greece). 2021Feb; 35: 363	Original Article
39	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Calf Circumference as a Useful Predictor of Sarcopenia in Patients With Liver Diseases	In vivo (Athens, Greece). 2020Oct; 34: 2561	Original Article
40	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Sarcopenia and Frailty in Chronic Liver Damage: Common and Different Points	In vivo (Athens, Greece). 2020Oct; 34: 2549	Original Article
41	Enomoto Hirayuki, Nakamura Hideji, Nishikawa Hiroki 他	肝・胆・膵内科	Hepatocellular Carcinoma-associated microRNAs Induced by Hepatoma-derived Growth Factor Stimulation	In vivo (Athens, Greece). 2020Oct; 34: 2297	Original Article
42	Kishino Kyohei, Enomoto Hirayuki, Shimono Yoshihiro 他	肝・胆・膵内科	Association of an Overhydrated State With the Liver Fibrosis and Prognosis of Cirrhotic Patients	In vivo (Athens, Greece). 2020Jun; 34: 1347	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
43	Shimono Yoshihiro, Enomoto Hirayuki, Kishino Kyohei 他	肝・胆・膵内科	Arm Skeletal Muscle Mass Is Associated With the Prognosis of Patients With Cirrhosis	In vivo (Athens, Greece). 2020Jun; 34: 1165	Original Article
44	Toshinori Takagi, Shinichi Yoshimura, Nobuyuki Sakai 他	脳神経外科	Distribution and current problems of acute endovascular therapy for large artery occlusion from a two-year national survey in Japan.	Int J Stroke. 2020Apr; 15: 289	Original Article
45	Hiroki Nishikawa 1 2, Hirayuki Enomoto 1, Shuhei Nishiguchi 3 他	臨床研究支援センター	Sarcopenic Obesity in Liver Cirrhosis: Possible Mechanism and Clinical Impact	International Journal of Molecular Sciences. 2021Feb; 22: 1917	Original Article
46	Enomoto Hirayuki, Aizawa Nobuhiro, Hasegawa Kunihiko 他	肝・胆・膵内科	Possible Relevance of PNPLA3 and TLL1 Gene Polymorphisms to the Efficacy of PEG-IFN Therapy for HBV-Infected Patients	International Journal of Molecular Sciences. 2020Apr; 21: 3089	Original Article
47	Enomoto Hirayuki, Nakamura Hideji, Nishikawa Hiroki 他	肝・胆・膵内科	Hepatoma-Derived Growth Factor: An Overview and Its Role as a Potential Therapeutic Target Molecule for Digestive Malignancies	International Journal of Molecular Sciences. 2020Jun; 21: 4216	Original Article
48	Akihito Babaya, Tomoki Yamano, Takaaki Matsubara 他	下部消化管外科	Correction to: Long-term clinical outcomes and follow-up status in Japanese patients with familial adenomatous polyposis after radical surgery: a descriptive, retrospective cohort study from a single institute	International journal of colorectal disease. 2021Feb; 36: 425	Original Article
49	Akihito Babaya, Tomoki Yamano, Takaaki Matsubara 他	下部消化管外科	Long-term clinical outcomes and follow-up status in Japanese patients with familial adenomatous polyposis after radical surgery: a descriptive, retrospective cohort study from a single institute	International journal of colorectal disease. 2020Nov; 35: 675	Original Article
50	Yoshitaka Torii, Daisuke Sano, Hiroki Ikeuchi 他	臨床検査技術部	Use of segmental colorectal lavage cytology during surveillance colonoscopy for detecting dysplastic and cancer cells in patients with ulcerative colitis	International journal of experimental pathology. 2020Aug; 13: 2035	Original Article
51	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Nishiguchi Shuhei 他	臨床研究支援センター	Liver Cirrhosis and Sarcopenia from the Viewpoint of Dysbiosis	International journal of molecular sciences. 2020Jul; 21: 5254	Original Article
52	Onoe Ken, Ogata Hiroki, Ishimoto Daisuke 他	麻酔科・疼痛制御科	No effect of intraoperative rocuronium does on 30-day postoperative complications after sugammadex reversal in patients undergoing gastrointestinal surgery.	Jclin Anesth. 2020May; 61: 109662	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
53	Kishima Hideyuki Mine Takanao, Fukuhara Eiji, Ishihara Masaharu 他	循環器内科	Left ventricular stiffness assessed by diastolic Wall strain predicts asymptomatic atrial high-rate episodes in patients with pacemaker implantation.	Journal of Cardiology. 2021Feb; 77: 195	Original Article
54	Naito Yoshiro, Masuyama Tohru, Ishihara Masaharu 他	循環器内科	Iron and cardiovascular diseases.	Journal of Cardiology. 2021Feb; 77: 160	Review
55	Nishikawa Hiroki,Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Serum Zinc Level Is Associated with Frailty in Chronic Liver Diseases	Journal of Clinical Medicine. 2020May; 22: 1570	Original Article
56	Maruo Keishi, Arizumi Fumihito, Kusuyama Kazuki 他	整形外科	Accuracy and safety of cortical bone trajectory screw placement by an inexperienced surgeon using 3D patient-specific guides for transforaminal lumbar interbody fusion.	The Journal of Clinical Neuroscience. 2020Aug; 78: 147-52	Original Article
57	Tachibana Toshiya, Maruo Keishi, Arizumi Fumihito 他	整形外科	Interbody fusion with cages for pyogenic vertebral osteomyelitis.	The Journal of Clinical Neuroscience. 2020May; 77: 191-4	Original Article
58	Hayashi Hideki, Kusakabe Minori, Nagai Masaru 他	皮膚科	Switching to ixekizumab improves adalimumab-induced interstitial lung disease in patients with psoriatic arthritis: A case report	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2021Feb; 4: 22	Case report
59	Norihiro Kuroda, Yoshiki Kusunoki, Keiko Osugi 他	薬剤部	Relationships between time in range, glycemic variability including hypoglycemia and types of diabetes therapy in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: Hyogo Diabetes Hypoglycemia Cognition Complications study	Journal of Diabetes Investigation. 2021Feb; 12: 244	Original Article
60	Kenji Watanabe, Satoshi Tanida, Nagamu Inoue 他	炎症性腸疾患外科内科	Evidence-based diagnosis and clinical practice guidelines for intestinal Behçet's disease 2020 edited by Intractable Diseases, the Health and Labour Sciences Research Grants	Journal of Gastroenterology. 2020May; 55: 679	Original Article
61	Iseki Tomoya, Benjamin B Rothrauff, Kihara Shinsuke 他	整形外科	Paediatric knee anterolateral capsule does not contain a distinct ligament: analysis of histology, immunohistochemistry and gene expression	The Journal of ISAKOS. 2021Mar; 6: 82-7	Original Article
62	Yanaka Koji, Akahori Hirokuni, Imanaka Takahiro 他	循環器内科	Impact of left ventricular diastolic dysfunction on long-term outcome in patients with lower extremity artery disease.	Journal of cardiology. 2020Jun; 75: 659	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
63	Kishima Hideyuki, Mine Takanao, Ando Tomotaka 他	循環器内科	Plasma brain natriuretic peptide level on admission predicts long-term outcome in patients with non-traumatic subarachnoid hemorrhage.	Journal of clinical neuroscience : official journal of the Neurosurgical Society of Australasia. 2020Aug; 79: 7	Original Article
64	Takashi Ueda, Yoshio Takesue, Kazuhiko Nakajima 他	感染制御部	Vancomycin loading dose is associated with increased early clinical response without attainment of initial target trough concentration at a steady state in patients with methicillin-resistant Staphylococcus aureus infections	Journal of clinical pharmacy and therapeutics. 2020Aug; 45: 1	Original Article
65	Kentaro Kojima, Toshiyuki Sato, Motoi Uchino 他	炎症性腸疾患内科	Clinical Characteristics and Risk Factors for Pneumocystis Jirovecii Pneumonia during Immunosuppressive Treatment in Patients with Ulcerative Colitis: A Retrospective Study	Journal of gastrointestinal and liver diseases : JGLD. 2020Jun; 29: 167	Original Article
66	Kazutaka Uchida, Shinichi Yoshimura, Hiroto Imamura 他	脳神経外科	Effect of statin administration after onset of acute ischemic stroke with large vessel occlusion: Insights from RESCUE-Japan registry 2.	Journal of the American Heart Association. 2020Dec; 9: e017472	Original Article
67	Ryuichi Kuwahara, Hiroki Ikeuchi, Toshihiko Bando 他	炎症性腸疾患外科	Clinical Results of One-stage Restorative Proctocolectomy with J-pouch Anal Anastomosis in 300 Ulcerative Colitis Patients	Journal of the Anus, Rectum and Colon. 2020Oct; 4: 181	Original Article
68	Nakayama Hiroshi, Kanto Ryo, Iseki Tomoya 他	整形外科	How the orientation of osteotomy in biplanar lateral closed-wedge distal femoral osteotomy influences the rotational alignment of the knee in all dimensional planes.	Knee. 2021Mar; 29: 167-73	Original Article
69	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Health-Related Quality of Life and Frailty in Chronic Liver Diseases	Life. 2020May; 10: 76	Original Article
70	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Frailty and Sleep Disorder in Chronic Liver Diseases	Life (Basel). 2020May; 10: 137	Original Article
71	Kazuhiro Kitajima, Takako Kihara, Yusuke Kawanaka 他	放射線医療センター	Characteristics of MR Imaging for Staging and Survival Analysis of Neuroendocrine Carcinoma of the Endometrium: A Multicenter Study in Japan	Magnetic Resonance in Medical Sciences. 2020Jul; 20: 1	Letter
72	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	臨床研究支援センター	Close Correlation between Frailty and Depressive State in Chronic Liver Diseases	Medicina (Kaunas, Lithuania). 2020Jun; 56: 319	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
73	Kazuhiro Kitajima, Kazuo Abe, Masanaka Takeda 他	放射線医療センター	Clinical impact of 11C-Pittsburgh compound-B positron emission tomography in addition to magnetic resonance imaging and single-photon emission computed tomography on diagnosis of mild cognitive impairment to Alzheimer's disease	Medicine (Baltimore). 2021Jan; 100: e23969	Review
74	Miki Kakutani-Hatayama, Manabu Kadoya, Akiko Morimoto 他	糖尿病・内分泌・代謝内科	Associations of sleep quality, sleep apnea and autonomic function with insulin secretion and sensitivity: HSCAA study	Metabolism Open. 2020May; 6: 100033	Original Article
75	Yamazaki Hiromitsu, Kuroiwa Takanori, Shinmura Ken 他	総合内科	Prevalence of anti-cyclic citrullinated peptide antibodies in patients with spondyloarthritis: A retrospective study.	Modern rheumatology. 2021Mar; 31: 458	Original Article
76	Nagasawa Yasuyuki	腎・透析内科	Positive and Negative Aspects of Sodium Intake in Dialysis and Non-Dialysis CKD Patients.	Nutrients. 2021Mar; 13: 951	Original Article
77	Kazuhiro Kitajima, Takako Kihara, Yusuke Kawanaka 他	放射線医療センター	Neuroendocrine carcinoma of uterine cervix findings shown by MRI for staging and survival analysis – Japan multicenter study	Oncotarget. 2020Oct; 11: 3675	Letter
78	Kawabata Yusuke, Okada Toshihiro, Iijima Hiroki 他	肝・胆・膵外科	Intraoperative ultrasound elastography is useful for determining the pancreatic texture and predicting pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy	Pancreas. 2020Jul; 49: 799	Original Article
79	Takeshi Utsunomiya, Akinobu Hibino Kiyosu Taniguchi, Takao Nagai 他	小児科	Factors Contributing to Symptom Duration and Viral Reduction in Outpatient Children With Respiratory Syncytial Virus Infection	Pediatric Infectious Disease Journal. 2020Aug; 39: 678	Original Article
80	Kuragano Takahiro, Joki Nobuhiko, Hase Hiroki 他	腎・透析内科	Low transferrin saturation (TSAT) and high ferritin levels are significant predictors for cerebrovascular and cardiovascular disease and death in maintenance hemodialysis patients.	PloS One.. 2020Sep; 15: e0236277	Original Article
81	Kazutaka Uchida, Shinichi Yoshimura, Fumihiko Sakakibara 他	脳神経外科	Simplified Prehospital Prediction Rule to Estimate the Likelihood of 4 Types of Stroke: The 7-Item Japan Urgent Stroke Triage (JUST-7) Score.	Prehosp Emerg Care. 2020Aug; 7: 1	Original Article
82	Manabe Eri, Ito Satoyasu, Ohno Yoshiya 他	循環器内科	Reduced lifespan of erythrocytes in Dahl/Salt sensitive rats is the cause of the renal proximal tubule damage.	Scientific Reports. 2020Dec; 10: 22023	Original Article
83	Wakasugi Tatsushi, Morishita Shinichiro, Kaida Katsuji 他	リハビリテーション技術部	Muscle oxygen extraction and lung function are related to exercise tolerance after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Supportive Care in Cancer. 2021Mar; 29: 1	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
84	Motoi Uchino , Hiroki Ikeuchi , Junzo Shimizu 他	炎症性腸疾患外科	Association between preoperative tumor necrosis factor alpha inhibitor and surgical site infection after surgery for inflammatory bowel disease: a systematic review and meta-analysis	Surgery today. 2021Jan; 51: 32	Original Article
85	Shinichi Yoshimura, Kazutaka Uchida, Nobuyuki Sakai 他	脳神経外科	Safety of early administration of apixaban on clinical outcomes in patients with acute large vessel occlusion.	Translational Stroke Research. 2020Aug; 12: 266	Original Article
86	Yuka Shintaku, Yuya Asano, Takahiro Watanabe 他	医療人育成研修センター卒後研修 室	A case of planar-type GIST of the sigmoid colon showing diverticular structure with perforation	World journal of surgical oncology. 2020Jun; 18: 125	Case report
87	Nakayama Hiroshi, Kanto Ryo, Onishi Shintaro 他	整形外科	Cartilage repair examined by second-look arthroscopy following double-level osteotomy performed for osteoarthritic knees with severe varus deformity.	knee. 2021Mar; 29: 411-7	Original Article

計4件

合計87件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査及び審査の範囲、申請手続き、他の研究機関の研究にかかる倫理審査、倫理審査委員の教育、利益相反等について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 COIマネジメント指針、マネジメント対象者及び対象事項、COIマネジメント委員会の設置及び運営、学外への情報公開等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 25 回 (月1回及び随時)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 【2020年度 研究者倫理講習会 (※web受講)】 日時：2021年3月30日～	

講師：兵庫医科大学 倫理審査委員会・臨床研究審査委員会委員長

麻酔科学・疼痛制御科学 廣瀬 宗孝

参加者： 773名（2021年7月8日時点※）

※以降、2021年度講習会へ切り替え

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修を修了した卒後 3 年目以上の医師を対象に専門医を目指すための専門的な研修を行う。当該研修においては、専攻分野ごとに研修プログラムを策定し、研修目標・到達目標の設定や、年次ごとのカリキュラムの設定を通して、効果的な研修が実施できるよう配慮している。  
なお、多数の症例を経験させるために、関連病院とも協働して研修を実施している。  
また、専攻分野によっては、研修期間中に大学院へと進学し、研究を行うことを可能としているものもある。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	196.9 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
澤田 暁宏	血液内科	助教	25年	
橋本 哲平	アレルギー・リウマチ科	講師	14年	
西村 貴士	肝・胆・膵内科 超音波センター	講師	20年	
小西 康輔	糖尿病・内分泌・代謝内科	講師	28年	
栗林 康造	呼吸器内科 がんセンター	臨床教授	26年	
武田 正中	脳神経内科	臨床教授	37年	
長澤 康行	腎・透析内科	講師	26年	
赤堀 宏州	循環器内科	講師	18年	
奥川 卓也	消化管内科 内視鏡センター	講師	15年	
横山 陽子	炎症性腸疾患内科	助教	16年	
山崎 博充	総合内科	助教	14年	
清野 仁美	精神科神経科	講師	25年	
柴田 暁男	小児科	講師	20年	
多田 正晴	肝・胆・膵外科	講師	25年	
大植 孝治	小児外科	臨床教授	36年	
倉橋 康典	上部消化管外科	講師	24年	
別府 直仁	下部消化管外科	講師	17年	
桑原 隆一	炎症性腸疾患外科	助教	11年	
今村 美智子	乳腺・内分泌外科	講師	22年	
山村 光弘	心臓血管外科	講師	34年	
橋本 昌樹	呼吸器外科	講師	16年	
辻 翔太郎	整形外科	助教	12年	
西本 聡	形成外科	臨床教授	31年	
白川 学	脳神経外科	講師	23年	

和田 吉弘	皮膚科	助教	7年
山本 新吾	泌尿器科	主任教授	34年
福井 淳史	産科婦人科	准教授	26年
岡本 真奈	眼科	助教	12年
寺田 友紀	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	准教授	27年
富士原 将之	放射線科	講師	23年
狩谷 伸享	麻酔科・疼痛制御科 ペインクリニック部	臨床教授	29年
宮脇 淳志	救命救急センター	講師	30年
竹田 健太	ICU	准教授	22年
道免 和久	リハビリテーション部	主任教授	35年
廣田 誠一	病院病理部	主任教授	37年
宮崎 彩子	臨床検査部	准教授	28年
中嶋 一彦	感染制御部	准教授	25年
野口 一馬	歯科口腔外科	准教授	30年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容
【1】医療安全管理に関する研修
① 医療講演会「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」、「兵庫医科大学病院での患者安全の確保について」、「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関すること」、「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関すること」、「兵庫医科大学病院における診療方針について」
② 医療講演会「MR検査室における医療安全」、「医療放射線に関する安全管理について」、「毒薬・劇薬の管理と医薬品紛失時の対応について」
③ 医療講演会「医療機器安全研修」（「ME全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」、「血液浄化装置」、「補助循環装置」）
④ 医療講演会「医療ガスの安全な使用方法」、「画像検査所見が正しく患者に反映されないメカニズムとその対策」
【2】病院感染対策に関する研修
① 院内講演会「クリーンハンドキャンペーン」
② 院内講演会「Covid-19対策：第3波に向けて」
③ 院内講演会「懸念されるCOVID-19とインフルエンザへの流行」
④ 院内講演会「COVID-19ワクチン、新たな知見」
【3】医療機器に関する研修
① 人工呼吸器の基礎
② 電気メスの使用法について
③ ME機器の安全使用について

- ④ 人工呼吸器の取扱い
- ⑤ CRRTについて
- ⑥ ECMOの基礎
- ⑦ 除細動器の取扱いについて

・研修の期間・実施回数

【1】医療安全管理に関する研修（全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）

- ① R2. 5. 25～ ② R2. 6. 22～ ③ R2. 7. 27～ ④ R2. 8. 24～

【2】病院感染対策に関する研修（全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）

- ① R2. 8. 17～21、9. 17～11、10. 14～16 ②R2. 11. 13～ ③R2. 12. 18～ ④R3. 2. 26～

【3】医療機器に関する研修

- ① R2. 6. 23 ②R2. 7. 6 ③R2. 7. 27 ④R2. 8. 25、R2. 8. 28、R2. 9. 22
- ⑤R2. 10. 23、R2. 10. 26 ⑥R2. 12. 8、R2. 12. 14 ⑦R3. 3. 15

・研修の参加人数

※参加人数はe-Learning、DVD貸出の全てを含む

【1】医療安全管理に関する研修

- ① 1,957名 ② 2,391名 ③ 1,377名 ④ 1,132名

【2】病院感染対策に関する研修

- ① 2,431名 ② 2,001名 ③ 1,511名 ④ 576名

【3】医療機器に関する研修（講義形式※③のみe-Learning）

- ① 24名 ② 48名 ③ 1,805名 ④27名 ⑤28名 ⑥17名 ⑦17名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① 看護部：リンクナース/感染防止委員「手指衛生」
- ② 看護部：リンクナース/感染防止委員「耐性菌」
- ③ 看護部：看護師研修「標準予防策・経路別予防策」
- ④ 看護部：病棟別研修「血管内カテーテル関連 血流感染」
- ⑤ 看護部：リンクナース/感染防止委員「耐性菌対策について/手指衛生について」
- ⑥ 看護部：リンクナース/感染防止委員「インフルエンザ」
- ⑦ 看護部：清掃作業従事者「清掃作業員に対する感染予防研修」
- ⑧ 看護部：リンクナース/感染防止委員「手指衛生」（フィードバック）

・研修の期間・実施回数

- ① 2020/6/11
- ② 2020/7/9
- ③ 2020/7/28、8/4 （2回）
- ④ 2020/8/26
- ⑤ 2020/9/10
- ⑥ 2020/10/8
- ⑦ 2020/10/23
- ⑧ 2020/11/12

・研修の参加人数

- ① 48名 ②48名 ③117名 ④15名 ⑤48名 ⑥48名 ⑦57名 ⑧48名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 阪上雅史
管理担当者氏名	管理課長 鈴木 明良、 医事課長 入佐 賢一 診療支援課長 梶浦 由利子、 薬剤部長 木村 健

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課	
		各科診療日誌	診療各科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療支援課、診療各科	
		看護記録	診療各科	
		検査所見記録	診療支援課、診療各科	
		エックス線写真	診療支援課	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療支援課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	—	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。  
一部指針等については院内向けホームページでも公開している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 管理課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 管理課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	管理課
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 小寺 齊人	
閲覧担当者氏名	管理課長 鈴木 明良、医事課長 入佐 賢一 診療支援課長 梶浦 由利子	
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、医事課会議室	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧を請求できる者である病院に患者を紹介しようとする医師及び歯科医師並びに国及び地方公共団体は、当院病院事務部長に「兵庫医科大学病院諸記録閲覧申請書」に必要事項を記入の上申請を行うことで閲覧の許可を得ることができる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>I. はじめに</li> <li>II. 医療安全管理体制確保のための委員会規約 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理規程 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理体制</li> <li>職員に対する教育・研修に関する事項</li> <li>医療事故発生時の対応・報告・分析等に関する事項</li> </ul> </li> <li>・ 医療安全管理者の業務指針</li> </ul> </li> <li>III. 当院における医療安全管理体制図 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療事故発生時の対応</li> <li>・ 院内救急医療体制</li> <li>・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する事項</li> <li>・ 患者からの相談への対応に関する事項</li> </ul> </li> <li>IV. 院内死亡患者における届出について</li> <li>V. 兵庫医科大学病院における異状死体の届出に関する基準</li> <li>VI. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について</li> <li>VII. 患者相談に関するフローチャート</li> <li>VIII. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針</li> <li>IX. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</li> <li>①医療の質・安全審議委員会</li> <li>②医療リスクマネジメント委員会</li> <li>・ 開催状況： <ul style="list-style-type: none"> <li>①医療の質・安全審議委員会 15回</li> <li>②医療リスクマネジメント委員会 12回</li> </ul> </li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>①医療の質・安全審議委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定機能病院承認要件に関する事</li> <li>・ 各委員会における審議内容等の監査に関する事</li> <li>・ 医療事故の原因究明・再発防止に関する事</li> <li>・ 医療事故の公的機関への報告に関する事</li> <li>・ 医療事故の事後措置に関する事</li> </ul> </li> <li>②医療リスクマネジメント委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療にかかる医療安全管理のための指針に関する事</li> <li>・ 医療事故発生時の対応に未然防止に関する事</li> <li>・ 医療事故の分析、改善策の立案、実施及び職員への周知に関する事</li> <li>・ セイフティマネージャーの活動に関する事</li> <li>・ 医療安全管理に関する職員の教育・研修に関する事</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>医療講演会（全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）</p> <p>令和2年5月25日～ 「当院における医療安全管理体制および特定機能病院承認要件に関する説明会」</p> <p>令和2年6月22日～ 「MR検査室における医療安全」 「医療放射線に関する安全管理について」 「毒薬・劇薬の管理と医薬品紛失時の対応について」</p> <p>令和2年7月27日～ 「ME機器の安全使用について」</p> <p>令和2年8月24日～ 「医療ガスの安全な使用方法」 「画像検査所見が正しく患者に反映されないメカニズムとその対策」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 発生したインシデント・アクシデントに対して、部長、副部長、専従セイフティマネージャーが発生部門のセイフティマネージャーと共に、内容分析、改善策の検討並びに患者・家族への対応の指示を行う。医療リスクマネジメント委員会委員及び各部署のセイフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、部門に改善策の助言提案を行う。</p> <p>② 報告のあった医療事故に対し、医療の質・安全審議委員会等で原因を分析し、改善策の検討を行う。迅速な対応が必要な場合、臨時で医療の質・安全審議委員会および医療事故等検討部会を開催し、原因分析・対応策の検討を行う。事案に応じて事故発生1か月後・3か月後（必要時6ヶ月後）に医療安全管理部（専従SM）と当該部署のセイフティマネージャーが、改善策の実施状況を検証し、医療の質・安全審議委員会に報告している。</p> <p>③ 発生したインシデント・アクシデント内容によりテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセイフティマネージャーと連携して、院内監査ラウンドなどを実施している。</p> <p>④ 毎年6月と2月の医療安全強化月間には、テーマを決め各部署の安全への取り組みを奨励支援している。同時に医療リスクマネジメント委員会の委員のラウンドを企画し、広く現場の現状を把握し他部署の見学・現場確認をするなどの機会となっている。</p> <p>⑤ 医療安全NEWSを毎月発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事故事例、医療安全情報（厚生労働省・各種学会・PMDA等）などを掲載し、職員に周知している。</p> <p>⑥ 初期研修医に対し、インシデント発生要因の分析や再発防止策を検討する機会を設け、医療リスクマネジメント委員会等で報告することによって、医療安全意識のボトムアップ効果と将来的な医師によるインシデント報告の増加を目指し、医療安全教育の一環として行っている。</p> <p>⑨ 医療安全管理部の下部組織である「エコーガイド下CVC挿入推進チーム」と共に安全な医療提供にむけ臨床現場での課題の把握と対策の実施、及び職員教育を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①感染管理に関する基本的な考え方                  ②感染管理体制                  ③職員の教育・研修                  ④感染症の発生時の報告                  ⑤感染症の発生状況の報告                  ⑥感染症の発生時の対応                  ⑦病院感染対策のための指針の閲覧                  ⑧病院感染対策のための指針の見直し・改正</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行する上での知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。</p> <p>●病院感染制御をテーマとする講演会を開催(全職員対象) …年4回</p> <p>①2020年8月17日(月)～21日(金)、9月7日(月)～11日(金)、10月14日(水)～16日(金)                  テーマ「クリーンハンドキャンペーン(アルコール手指衛生)」</p> <p>②2020年11月13日(金)                  テーマ「Covid-19対策：第3波に向けて」</p> <p>③2020年12月18日(金)                  テーマ「懸念されるCOVID-19とインフルエンザへの流行」</p> <p>④2021年2月26日(金)                  テーマ「COVID-19ワクチン、新たな知見」</p> <p>●新採用(異動)者を対象とした研修</p> <p>2020年4月1日(木)                  テーマ「病院感染予防策の基本」(4月採用職員)</p> <p>2020年4月2日(金)～3日(土)                  テーマ「院内感染対象の実践」(4月採用臨床研修医)</p> <p>2020年4月7日(水)</p>	

テーマ「感染対策の基本～手洗い、手指消毒、個人防護具の実践」（4月採用看護職者）

2020年4月～2021年3月（毎月開催）

テーマ「新入職時院内感染対策研修（オリエンテーション）」（上記3研修の未受講者）

テーマ「手指衛生および個人防護具について」（救急研修医ローテイト開始時）

●職種別研修（以下の職種を対象に研修、教育、指導を実施）

2020年6月11日（金）

テーマ「手指衛生」（感染リンクナース）

2020年7月9日（金）

テーマ「耐性菌」（感染リンクナース）

2020年7月28日（水）、8月4日（水）

テーマ「標準予防策・経路別予防策」（看護師ラダーⅠ）

2020年8月26日（木）

テーマ「血管内カテーテル関連 血流感染」（6西病棟看護師、看護助手、クラーク）

2020年9月10日（金）

テーマ「耐性菌対策について/手指衛生について」（感染リンクナース）

2020年10月8日（金）

テーマ「インフルエンザ」（感染リンクナース）

2020年10月23日（土）

テーマ「清掃作業員に対する感染予防研修」（清掃作業従事者）

2020年11月12日（金）

テーマ「手指衛生（フィードバック）」（感染リンクナース）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院で取り決めた感染症発生時は、マニュアルに従って、各診療科より報告される。緊急対応が必要な病原体は別途定め「感染症発生時の対応パターン分類」に基づいて対応し、必要により感染対策委員会で審議の上、対策を講じている。

耐性菌については「レベル別分類」を別途設けており、レベルに応じた対策を講じる。耐性菌検出時は即時に対応しており、保菌者に対しても感染管理ラウンドにより感染対策の実践状況を評価し適宜介入する。

アウトブレイクを疑う事例が発生した場合は、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応する。アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部による原因の究明ならびに感染拡大防止策を実施する。更にレベル4以上の多剤耐性菌については、1例目の検出からアウトブレイク対応として迅速に対応することとしている。

院内の感染症治療および抗菌薬の適正使用支援に関しては、抗菌薬適正使用支援ラウンドとして、

感染症治療に関するコンサルテーションに対する対応、ICUでの重症患者治療、無菌検体から検出した病原体への治療介入、新規耐性菌に対する感染症の評価（必要時治療介入）およびタゾバクタム/ピペラシリンとカルバペネム系抗菌薬使用症例の翌日および使用後の72-96時間後の評価とフィードバックを行う。抗緑膿菌活性を有する抗菌薬の使用割合をDOT（1000患者日あたりの使用日数）で評価し、カルバペネム系25%、タゾバクタム/ピペラシリン35%、第4世代セファロスポリン系/セフトジジム25%、ニューキノロン系15%を目標として使用割合をコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 新規採用職員対象入職時研修 令和2年4月1日～          テーマ 「医薬品の安全管理について」          講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>② 臨床研修医オリエンテーション 令和2年4月6日          テーマ 「医薬品の安全使用について」          講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>③ 新人看護職員研修 令和2年4月2日          テーマ 「セイフティマネジメント」(薬剤の取り扱い含む)          講師 兵庫医科大学病院 看護部 高橋 仁美</p> <p>④医療講演会 令和2年6月22日～          テーマ 「毒薬・劇薬の管理と医薬品紛失時の対応について」          講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>⑤その他 病棟薬剤師などから各診療科・病棟スタッフに対して医薬品安全管理に関するレクチャーを実施          (例：化学療法施行の注意事項・副作用について、新規薬剤の投与・溶解方法等について、救急カートの薬剤について、電子カルテでのアレルギー入力について、簡易懸濁法についてなど 令和2年4月～令和3年3月までで283件)</p> <p>※covid-19対策のため、①、④ e-learningおよびDVD貸出で実施</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項</li> <li>・ 医薬品の管理に関する事項</li> <li>・ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項</li> <li>・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項</li> <li>・ 他施設との連携に関する事項</li> <li>・ 放射性医薬品の取り扱いに関する事項</li> <li>・ 院内製剤の調製及び使用に関する事項</li> <li>・ 未承認新規医薬品等の使用に関する事項</li> <li>・ 未承認等の医薬品の使用に関する事項</li> </ul> <p>医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の実施については、業務確認票を用いてセイフティマネージャーと薬剤師で相互にチェックを行い、医薬品安全管理責任者に報告し確認が行われている。</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  ・ 無 )
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :  
未承認等の医薬品 (適応外使用又は禁忌使用) は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に届け出ることによって病院として把握するシステムが構築されている。  
具体的な使用事例としては、10歳以上の小児のⅡ型糖尿病に対するGLP-1受容体作動薬 (トルリシティブ皮下注、ビクトーザ皮下注) の使用について報告があり、米国FDAでは承認もあることを確認し使用について把握している。  
COVID-19 に対しては感染制御部からトシリズマブ (アクテムラ) の使用が報告されており、使用方法について把握している。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
  - ・ 保険診療等で適用が承認されていない治療や薬品等の使用を行い緊急避難的な治療を行う場合、医療倫理委員会に申請して審査を受けることができる。
  - ・ 医師の処方した薬剤の使用が未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法に該当することを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づき必要に応じて処方した医師等に対して、処方の必要性や妥当性等を確認し処方の変更等の提案を行っている。
  - ・ 緊急安全性情報、安全性速報などの迅速な対応を必要とする情報提供はその経過の記録を保管している。その他、必要に応じて医薬品適正使用のために周知すべき注意喚起情報は、月1回の医療安全ニュースに掲載し、その閲覧状況を確認している。
  - ・ 医薬品安全管理責任者に指名された担当者は、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報 (禁忌等)、緊急安全性情報、安全性速報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に関わる情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 100 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の機器を中心に取り扱い方法・安全対策について研修を行っている <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸器 ・血液浄化装置・除細動器 ・補助循環装置 ・不整脈治療関連機器</li> </ul> </li> <li>・保育器 ・輸液ポンプ ・医療ガス ・放射線機器等</li> </ul> </li> </ul>	
<p>③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の装置に対しては定期点検（外観点検，機能点検，作動点検）を実施している <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸器 ・血液透析装置 ・血液浄化装置 ・補助循環装置 ・保育器</li> <li>・体外式ペースメーカー ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ ・除細動器 ・電気メス</li> <li>・生体情報モニタ ・麻酔器 ・放射線機器</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
<p>④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</li>   <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師）・歯科医師）</li> <li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理者（医療安全管理部部長、専従セイフティマネージャー）とともに、病院長から委譲された権限に基づいて安全管理に関する院内の体制を構築し、医療リスクマネジメント委員会の円滑な運営を図っている。</li> <li>・ 医療安全管理責任者は、医療リスクマネジメント委員会を開催、議事進行を行い、決議事項を病院長に報告している。</li> <li>・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理部の構成員である医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者と連携し、職種・部門間の調整を図りながら、医薬品、医療機器および診療用放射線の安全使用が確保されるように業務を行っている。</li> <li>・ 医療安全管理責任者は医療安全管理に関する必要な情報を医療安全管理部長より報告を受ける。重篤な有害事象に対しては、医療の質・安全審議委員会に出席し、審議する。</li> </ul> </li> </ul>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況              医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（医薬品安全管理者）が、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。医薬品安全管理責任者は報告された情報を踏まえて、必要に応じて医薬品安全管理者に指示してDIニュースで当該情報を院内に通知している。特に重要な情報については医療安全ニュースの「医薬品安全使用のための注意喚起情報」に掲載し、その周知状況については全診療科の閲覧記録を確認している。また、これらの手順は医薬品の安全使用のための業務手順書に記載して院内に周知している。</li> <li>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況              未承認等の医薬品（適応外使用又は禁忌使用）は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に届け出ることによって病院として把握するシステムが構築されている。未承認新規医薬品等評価委員会は必要に応じて当該診療科に対して指導を行う。また、医薬品が適応外又は禁忌等で使用されたことを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づいて必要に応じて処方した医師等に対して疑義照会を行う。</li> <li>・ 担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有）・無）</li> <li>・ 担当者の所属・職種：              （所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 ）</li> </ul>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームドコンセントワーキングを設置し、規定に基づき説明文書・同意書等の審査承認を行い、診療情報管理室において管理統括している。また、全診療科を対象に、他職種の診療録管理委員がチームとなり、対象診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長立ち会いの下、「オーディット」を実施している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者には病院長の直轄下に、診療情報管理室長（医師）を設置（選任）しており、診療情報管理士による診療録管理の統轄を行っている。また毎年全診療科を対象に、診療録管理委員の医師、看護師、診療情報管理士がチームとなり、診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長立ち会いの下、「オーディット」を実施している。さらに、診療録管理委員会による診療録記載ルールの策定、医療者への指導を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ ）名、兼任（ 15 ）名 うち医師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 8 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>活動の主な内容： ①安全管理体制の構築、委員会の運営、指針、マニュアルの改訂など ②医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価 ③改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言 ④安全管理対策の実施状況の調査、分析 ⑤セイフティマネージャーの活動支援 ⑥医療安全に関する職員への教育・研修の実施 ⑦医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析 ⑧全死亡事例の検証（院内死亡患者届出票・死亡患者リスト）</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

#### ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
  - ①医療安全管理部の求めるところにより、当該高難度新規医療技術の提供に関する倫理的・科学的な妥当性、本院で当該高難度新規医療技術を提供することの適切性並びに当該高難度新規医療技術の適切な提供方法（科学的根拠が確立していない医療技術については、有効性及び安全性の検証の必要性や、本院の体制等を勘案した上で、臨床研究として実施する等、科学的根拠の構築に資する実施方法について検討することを含む。）について審査を行い、当該高難度新規医療技術の提供の適否及び提供後に報告を求める症例数等について評価する。
  - ②前号において評価した結果を、兵庫医科大病院医療の質・安全審議委員会及び医療安全管理部長に対し適否結果意見書（答申書）により答申する。
  - ③1号で決定した報告を求める症例（数）に対し、術後1年間の経過を医療安全管理部が追跡観察し、当該委員会に報告する。
  - ④高難度新規医療技術として承認を受けた技術に対して、医療安全管理部が6カ月ごとに安全に実施されているか否かのモニタリングを行い、当該委員会に報告している。
  - ⑤その他、高難度新規医療技術の適切な提供方法に関すること。
    - ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
    - ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

診療科の長から提出された未承認新規医薬品等の申請内容を確認し、未承認新規医薬品等評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めている。評価委員会からの意見に基づき適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対し適否結果通知書により通知を行い、また適否等の決定については病院長に報告を行っている。診療科の長は当該未承認新規医薬品等を用いた医療を提供した後、未承認新規医薬品等評価委員会が定める症例数、及び患者が死亡した場合、その他必要とされる場合には、未承認新規医薬品等実施報告書を当部門に提出することになっている。また承認後1年毎に患者使用状況を提出することになっており、

それに基づき診療録等の記載内容の確認を行い、当該未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されているかどうか確認している。また遵守状況の確認後はその内容を病院長に報告している。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 514 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 93 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
影響レベル 3b 以上の事例・事象は『事実関係報告書』を提出することとして、予期せぬ合併症、重篤な合併症事例の報告を受け委員会で検討している。  
死亡事例報告に関しては、平成 28 年 7 月から『院内死亡患者届出票』の様式・運用を決定し提出を促して運用している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  (病院名：愛知医科大学病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  (病院名：愛知医科大学病院) ・ 無)  
※covid-19 対策のため、書類のやり取りで実施。
- ・ 技術的助言の実施状況  
・ 医師の報告件数増加のための工夫について検証が必要である。  
インシデント・アクシデントの医師報告は全体の 7～8%で推移している。研修医の時期にインシデント入力・報告方法を指導する、医療安全の委員会に参加し、院内で発生している事象や対策を検討している場面に触れることが今後の報告増加につながると考えている。  
手術センター看護管理日誌から合併症の可能性がある事案を抽出し、部内で検討したうえで各診療科セイフティマネージャーへメールにて報告の必要性を確認する、などの方法をとっている。  
・ 手術に関するモニタリングについて、どのようになっているか。  
医療安全管理部副部長（麻酔科医）、専従看護師が不定期に手術センター及びアイセンターにて患者受け入れの場面から手術終了まで立ち会い、フィードバックを行っている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況  
患者及び患者家族からの相談は、医療支援センターを窓口としている。内容に応じて医療安全管理部、管理課医療安全係に連絡が入ることとなっている。また、診療科、病棟・外来を介しても医療安全管理部に連絡が入るので、その都度対応している。患者相談に応じる為、メディエーター研修等を受講している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

・医療講演会（年間4回開催）

- ① 当院における医療安全管理体制について
- ② 医薬品及び医療放射線に係わる事故を防ぐ ※薬剤部・放射線医療センターとの連携
- ③ 医療機器に関して※臨床工学部との連携
- ④ 治療の質に関して ※院内講師、臨床工学部・医療ガス安全管理委員会との連携

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

特定機能病院管理者研修

【受講者】	【日付】
管理者	2021. 2. 14
医療安全管理責任者	2020. 12. 24
医薬品安全管理者	2020. 12. 16
医療機器安全管理責任者	2020. 10. 15

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2020年10月に受講予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、受審延期となり、2021年12月に受審予定としている。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

受審結果が出次第、ホームページ上に公表予定。

・評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 「人格、学識ともすぐれ、医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等、医療安全確保のために必要な資質・能力を備え、かつ兵庫医科大学病院の理念に沿い、病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者」（兵庫医科大学病院長選考規程 第3条に規定）</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 本学ホームページ</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<p>・合議体の主要な審議内容            病院の管理運営に関して情報交換、情報共有を行うとともに、病院運営の円滑化、効率化や病院経営の健全化に向け必要かつ重要な事項を審議する（合議体名：病院幹部会議 月2回開催）</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況            病院部長会、医局長・病棟医長・医局長会議等にて周知を行う。            また、当該合議体である病院幹部会議の規程第2条において、病院部長会への報告と職員の周知が定められている</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有 (無)）</p> <p>・公表の方法            院内ホームページに掲載</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有 (無)）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
阪上 雅史	○	医師	病院長
三輪 洋人		医師	副院長
廣瀬 宗孝		医師	副院長
長谷川 誠紀		医師	副院長
池内 浩基		医師	副院長
木島 貴志		医師	副院長、がんセンター長
丸山 美津子		看護師	副院長・看護部長
木村 健		薬剤師	薬剤部長
琴浦 規子		放射線技師	放射線技術部長
井垣 歩		臨床検査技師	臨床検査技術部長
小寺 斉人		事務職員	病院事務部長
中嶋 一彦		医師	感染制御部長
高橋 敬子		医師	医療安全管理部長
甲斐 義啓		事務職員	総務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
院内ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容  
病院長の任務と権限、任期等  
病院長規程  
第3条（病院長の任務と権限）に基づき、管理運営上必要な意思決定、人事、予算執行に関する適切な権限を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
病院規程第4条において、病院長の職務を円滑にするため、副院長を置くことができるとあり現在、以下6名を配置している。  

（所属・役職等） 消化管内科診療部長 麻酔科診療部長 呼吸器外科診療部長 炎症性腸疾患外科診療部長 呼吸器内科診療部長 看護部部長	（担当） 内科部門長、広報 働き方改革、急性医療総合センター、情報システム 外科部門長 地域連携、教育研究体制、新専門医制度 医療安全、危機管理、がん診療 療養環境、患者サービス、病床管理
---	--
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

特定機能病院管理者研修

【受講者】	【日付】
管理者	2021. 2. 14
医療安全管理責任者	2020. 12. 24
医薬品安全管理者	2020. 12. 16
医療機器安全管理責任者	2020. 10. 15

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院長から、医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療の質・安全審議委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者等の業務が適切に実施されているか等について説明(報告)を求めると共に実施(外部委員を含めた立ち入り調査を含む)で監査を行う。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>兵庫医科大学病院のホームページにて掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮崎浩彰	関西医科大学 医療安全管理 センター副セ ンター長 (兼任)消化器 肝臓内科 / 理事長特命教 授(医師)	○	医療に係る安全 管理に関する見 解を有する者	有・(無)	1
亀井 尚也	かけはし法律 事務所(弁護 士)		法律に関する見 解を有する者	有・(無)	1
辰馬 勝	学校法人 関 西学院評議員 関西学院同窓 会 副会長		医療を受ける者 の立場から意見 を述べることが できる者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

①監査部門による監査及び報告

監事による監査の実施（学校法人兵庫医科大学監事監査規程）

監事は常に本法人経営に関する内部統制の状況及びその有効性に留意しながら、本法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行っている。必要があると認めるときは、理事長に意見表明を行うこととしている

内部監査室による監査の実施（学校法人兵庫医科大学内部監査規程）

法令、理事会の運営方針及び諸規程に準拠し、合法性と合理性の観点から検討及び評価を行っている。その結果を理事長に報告している

外部監査法人による監査の実施

会計監査を実施し、その結果を理事会に報告している

②管理者の重要会議への出席

管理者は、理事会、評議員会、常務会、経営常務会へ出席し、業務に関する審議事項の説明及び報告を行っている

重要会議には、監事、内部監査室長も出席している

③通報・相談窓口の設置

業務に関し法令等に違反する事案・行為を発見した場合に、教職員が電話、電子メール、書面や面談等により利用できる通報・相談窓口を設けている

通報・相談を行った者に対して不利益な扱いをしない旨を規程に定めて実効性を確保している（学校法人兵庫医科大学公益通報者保護規程）

窓口は内部監査室に設置している

④医療安全業務監査委員会（兵庫医科大学病院医療安全業務監査委員会規程）

監査委員会は、出席委員全員の合意の下に、監査結果を開設者・病院事業管理者及び病院長に対して意見を述べ、必要に応じて是正措置を講じるよう指導または勧告することができるとしている

病院長（管理者）は是正指導または勧告を受けた場合は、速やかに監査委員会に対して改善内容等を報告し、承認を得なければならないとしている

なお、監査結果報告書は公開され、閲覧できる

・ 専門部署の設置の有無（  有  無 ）

・ 内部規程の整備の有無（  有  無 ）

・ 内部規程の公表の有無（  有  無 ）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 年6回の理事会の開催</li>   <li>・ 会議体の実施状況（年6回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・<input type="radio"/>無）（年6回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有<input checked="" type="radio"/>・<input type="radio"/>無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 医療安全に関する通報 → 病院事務部 → スタッフマニュアルに掲載 公益通報 → 内部監査室 → ホームページに掲載 病院運営情報全般 → 管理課 → 教職員宛に通知のうえホームページに掲載</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページや院内掲示を通じて、患者さん及び外部へと診療実績（クリニカル・インディケーター）をはじめとした情報を発信している。また、「学校法人兵庫医科大学広報」と「ここらいふ」の2誌を定期的に発行しており、連携病院に対しては送付による案内も行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>安全管理体制の強化を旨るとともに、医療の質向上を目指し、複数診療科の医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ等多職種からなる医療チームを編成し、適切な患者ケアや総合的な患者管理等を行う医療チーム及び医療従事者の質向上を目的とする合計14の医療チームを組織している。</p> <p>（患者ケア等を目的とするもの）</p> <p>感染対策チーム（ICT）、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチーム、呼吸ケアチームおよびラピッドレスポンスチーム（RRST）、精神科リエゾンチーム、周術期管理チーム、認知症ケアチーム、排尿ケアチーム、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、子どもと家族の支援チーム、医療倫理コンサルテーションチーム</p> <p>（医療従事者の総合的な支援を目的とするもの）</p> <p>エコーガイド下CVC挿入推進チーム、救命処置（BLS・ALS）推進チーム、新型コロナウイルス感染症禍における職員のメンタルサポートチーム</p>	